

Geneses of Photography in Japan:

Nagasaki

長崎



写真

発祥

地の

原

風景

《長崎パノラマ》(部分) 制作年:文久元(1861)年 制作者:プロイセン東アジア遠征団写真班 素材技法:鶏卵紙 所蔵:東京都写真美術館

2018(平成30)年3月6日(火)~5月6日(日)

一部展示替え有(4月9日[月]に展示替えを行います)

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、国立大学法人長崎大学、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛:ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網、東京都写真美術館支援会員

協力:長崎県、長崎県観光連盟、長崎市、長崎歴史文化博物館

後援:オランダ王国大使館

会場:東京都写真美術館2階展示室 開館時間:10:00~18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで

休館日:毎週月曜日(ただし、4月30日(月・振替)、5月1日(火)は開館)

料金:一般700(560)円/学生600(480)円/中高生・65歳以上500(400)円

※()は20名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

TOP MUSEUM

日本における写真文化のセンター的役割を担うという美術館の基本的方針に基づき、東京都写真美術館では、毎春、初期写真に焦点を当てる展示を開催しています。2018年は「写真発祥地の原風景 長崎」を開催します。日本の写真発祥地では、開国と同時に写真制作がはじまり、近代化の歴史は写真によって記録されました。写真の普及が早ければ早いほど、その土地の写真は多くなります。

海外に開かれた港町として栄えた「異域」長崎では、ピエール・ロシエ(Pierre Rossier)やフェリーチェ・ベアト(Felice Beato)などの外国人写真師が訪れて写真を制作しました。一方、上野彦馬・幸馬兄弟、内田九一をはじめ、薛信二郎、竹下佳治、清河武安、為政虎三などの日本人写真師も誕生し、日本の写真文化が開花する核となりました。

本展では、東京都写真美術館が収蔵する重要な上野彦馬『長崎市郷之撮影』、内田九一『西国巡幸写真帖』および同撮影で日下部金兵衛が頒布した《(長崎パノラマ)》、フェリーチェ・ベアト『幕末アルバム』や『ボードイン・アルバム』(長崎大学附属図書館蔵)、伝・堀江敏二郎《上野彦馬像》(日本大学藝術学部蔵)、『内田九一写真帖』(長崎歴史文化博物館蔵)等の写真作品のほか、川原慶賀《長崎出島之図》(長崎大学附属図書館 武藤文庫蔵)、写真を原図に用いた青貝細工の《長崎風物図箱》、長崎版画、稀覯本の展示も予定しています。

長崎学に造詣の深い姫野順一博士(長崎外国語大学特任教授・長崎大学名誉教授)監修のもと、幕末・明治の長崎を東京都写真美術館の展示室に再構築します。

本展は、「明治150年」を記念するとともに、長崎大学附属図書館の幕末・明治期日本の写真データベース公開20周年を記念し、同館と共同で開催いたします。

なお、本展は長崎歴史文化博物館に巡回(5月22日～6月24日)を予定しています。また「写真発祥地の原風景」はシリーズとして展開し、今後、北海道編、東京編の開催を予定しています。

◎長崎をめぐる初期写真シンポジウム～オリジナルとデジタルアーカイブ～
4月7日(土) 14:30-17:30 (14:00開場)

幕末・明治の初期写真における長崎、長崎における初期写真、また、デジタルアーカイブの可能性を踏まえてこれらの活用について研究者より発表を戴くと共に、将来にわたる初期写真の活用をオリジナルとデジタルアーカイブの両面から討議します。

会場：東京都写真美術館 1階ホール 定員：190名
※当日10時より1階ホール受付にて整理券を配布します。番号順入場、自由席。

◎古典技法ワークショップ

コロディオン湿板制作デモンストレーション 4月14日(土) 14:00-16:30

コロディオン湿板の制作プロセスを見学し、当時の写真技術を知る絶好の機会です。終了後に、4月28日(土)開催のコロディオン湿板制作ワークショップ(有料・デモ参加者対象)の申し込みも受け付けます。

会場：東京都写真美術館 1階スタジオ 定員：50名、入場無料、先着順。
詳しくはホームページ(<http://www.topmuseum.jp>)をご覧ください。

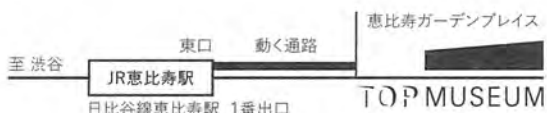
◎展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケット(当日印)をご持参のうえ、2階展示室入口にお集まりください。ゴールデンウィーク期間中のギャラリートークは、ホームページでお知らせします。※事業はやむを得ない事情で変更することがございます。あらかじめご了承ください。

◎Gallery Tours in English

Date: March 16 Friday 14:00-, April 20 Friday 18:00-

As a special service for this exhibition, there will be two guided tours of the gallery conducted in English. The lecturer is Alice Gordenker, a writer and researcher in Japanese photographic history, who will provide explanation in English while guiding visitors through the exhibition for about an hour. Free with purchase of regular exhibition admission.



JR 恵比寿駅東口 徒歩約7分、東京メトロ日比谷線 恵比寿駅 徒歩約10分

※当館には専用の駐車場がございません。公共交通機関をご利用いただくか、お車でお越しの場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL.03-3280-0099 www.topmuseum.jp



《眼鏡橋、長崎》/慶応2(1866)年/フェリーチェ・ベアト/鶏卵紙/DIC川村記念美術館



《雨の日の日本人たち(出島)》/万延元(1860)年/ピエール・ロシエ/鶏卵紙(ステレオカード)/長崎大学附属図書館



《長崎風物図箱》/江戸末期/制作者不詳/長崎歴史文化博物館



《(ボードイン兄弟とその同僚)》/慶応元(1865)年/アントニウス・ボードイン/鶏卵紙/長崎大学附属図書館



《(紅毛人遠見之図)》/江戸時代後期/制作者不詳/多色刷木版/長崎歴史文化博物館/展示期間は3月6日[火]～4月8日[日]です